

心を整えて幸せを呼ぶ64の方法

(不思議な世界の方々から教わった未来を感じとる知恵)

(165)

9 後悔と心配は「今」を忘れているサイン

人間とは不思議なものです。

今この瞬間にしか生きられないのに、過去の行いを後悔したり、未来の出来事を心配したりして、二度とはない「今」を虚しくするのですから。

「あのときこうしていたら……」

ご存じですか？ そうやってあいまいな後悔に浸るとき、あなたは過去の人になっているのですよ。せめて「2年前に〇〇をしたのはよくなかったので、これからはもうしないと決めます」と、過去は過去として考えてください。

「この先、こんなことが起こったら……」

そんなふうに関心ばかりしているあなたは、「こんなこと」をわざわざ呼び寄せて

いるようなものです。なぜって、だれでも名前を呼ばれたら、そちらへ近づいていくでしょう？ 心配事も同じです。「呼ばれたから行かなくちや」となりますよ。

私たち人間が「今を生きる」ということについて、不思議な世界の方々がメッセージをくださいました。ここで紹介しましょう。

人には昨日の自分はなく、今の自分がすべてである。

それゆえに、今を大切に生きよ。明日になれば、次の自分が生まれる。

過去の愚かな行いも、明日に希望を持てば、その愚かな行いがよい礎石になり、自分の大地に基礎をつくる。

明日もまた、生きていることを喜び、自分の人生の持ち時間いっぱい、生き生きと過ごしていくことを心に刻み込み、自分らしく、人間らしく、人間として生まれた意義を清らかな心で観、そして生きる。

それがあなたがた人間の、真の姿なり。

今の自分がすべて。明日には新しい自分が生まれます。

33 「味わう」という自覚が「感」を高める

私たち日本人の味覚は、世界の中でも最高だそうです。味覚といえば、甘味・塩辛味・苦味・酸味・旨味の5つが基本です。日本人は、これらを味わい分ける感覚にすぐれ、特に旨味を感じる力は、ほかの民族を大きく引き離していると聞きます。

ところが、最近の日本人は、添加物を多く食べているせいで、世界最高の味覚を失いつつあるのだとか。とても残念なことです。

考えてみれば、いろいろな味を楽しむというのは、人間にしかできないことです。味わうことをしないで、ただ機械的に食べ物をお口に入れるのは、せっかく神様から授かった能力

を無駄にすることもありません。

そして、味わうことは食べることですから、生きている証であり、命をつなぐ原動力となる行為です。「私は今、生きています。これから食べ物をいただきます。「感」さん、働いてくださいね」と、心身にメッセージを送ることだと思うのです。

ですから、料理などをいただくときには「味わいます」という自覚を高めるようにしてください。

また、食べ物に対して「いろいろな臓器に挨拶してまわってください」と、お願いしてみましよう。なぜなら、口から体内に取り込まれた食べ物は、食道を通り、胃腸で消化・吸収され、体内を旅して、私たちの肉体をつくってくれるからです。

薬を飲むときも同じですよ。

ただ口に放り込んで飲み下すより、「いろいろな臓器をまわって、体の調子を整えてください」とお願いするほうが、効き目がよくなります。

こうした感覚を育てていくと、味わうという行為を通じて深い満足感を得ることができるようになります。もちろん、「感」を開く助けにもなります。

味わうことは生きること。命をつなぐ原動力です。

46 人気運と引き立て運を得るにはコツがある

現世には、人気運というものがあります。引き立て運というものもあります。

どなたがどちらをお持ちなのかは、お会いしてみないとわかりませんが、このふたつの運は、確かに「ある」と感じます。

皆様の身近にも、恵まれた方がいらっしゃるのではありませんか？「切れ者」という印象ではないけれど、だれからも好かれ、よいポジションにいる方が。

もしも、神様に不公平なところがあるとしたら、この運を与えるか、与えないかというところだけかもしれない、とも思います。

でもね。たとえ神様に与えられなかったとしても、この運を引き寄せることができるような気がいたします。

と申しますのも、よくよく観察しているとわかるのですが、この運をお持ちの人には、共通する特徴があるのです。その特徴を取り入れることができれば、人気運も引き立て運も、自然と身につくのではないのでしょうか。

では、その特徴とは何でしょう。

第一に「少しポーツとしている」ということです。これは、人気運もそうですが、特に引き立て運を持っている人に当てはまります。

また、この「少しポーツとしている」というのを別の言葉でいうなら、「人様の言葉をそれほど深刻に受けとめず、聞き流すことができる」となります。

これは、とても大事なことです。ちょっとご説明させてくださいね。

人はだれでも、人様に何かを教えることが大好きです。老若男女を問わず、自分の考え・体験・知識などを相手に教えることに喜びを感じます。

たとえばね。「人間とは何か」「幸せとは何か」といった大きなテーマにせよ、古今の賢人だけが考え、語ることを許されているわけではありません。どなたも考えておられますし、自分以外の人間に語り、教えることができます。ましてや「あなたの考えをぜひ聞かせてください」などといわれたら、それはうれしいものですよ。多くの人は、ここぞとばかりに自分の考えを語りはじめるでしょう。

ふだんの生活の中で、人間のこうした一面を上手に受けとめてくれるのが、引き立て運を持った人たちなのです。

もうわかりですね？ 少しポーツとしているからこそ、よいのですよ。

こういう人たちは、相手の言葉尻をいちいちとらえ、厳しく反論するようなことをなさいません。「なるほど」「そうですなえ」と、穏やかに相づちを打ち、いつのまにか相手に満足感を与えています。それが引き立て運につながるのです。

第二の特徴は、「この人は裏切らない」という雰囲気を感じられることです。これといった根拠がなくても、そう思ってもらえるのが大きな強みです。

人気運と引き立て運を持っている人の共通点は、以上です。いかがですか？ 共通点を取り入れて、運を引き寄せることができそうですか？

反対の例を申しますと、「私はできる」ということを前面に押し出す人は、意外に好かれられないのですよ。できない・わからないという顔をして、あえて一歩下がっているほうが、まわりに支えてもらえます。

このあたりのかねあいは、ちょっと難しいかもしれませんが、なぜって、人間は「できる」と思われたいものですからね。でもそこは、「能ある鷹は爪を隠す」ということわざにならしましょう。

引き立て運を持っている人だって、見た目はポーツとしていても、本当にそうだとは限りません。それどころか、じっくりお話をさせていただきますと、深い知性と慈愛を備えた方だと感じる人が多いものです。

前の項目で、相手の話に耳を傾け、受けとめるのは愛情表現であるというお話をしましたが、そういう愛情をたくさん持っている人が、引き立て運や人気運を得るともいえそうです。そうしてみると、このふたつの運は、愛情の深い人たちに對する、神様からのごほうびかもしれませんね。

「できる人」より「少しポーツとした人」をめざしましょう。

1 閻魔大王とは自分自身の心が姿をなしたもの

私たちが肉体を脱ぎ捨て、あちらの世界へまいりますと、閻魔大王のお裁きを受けて行き先が決まるといわれています。このことについて、不思議な世界の方々から教えていただきたい

たことをお話したいと思います。

肉体の死後、私たちを裁く閻魔大王とは、もうひとりの自分です。閻魔帳とは、わが身の行いが記された、自分自身の心です。ですから、閻魔大王のお白州とは、自分の人生を改めてふり返り、自分の行き先を決める場なのです。

私たちは、自分の行いを人様から裁かれたとしても、心の中に逃げ道をつくることができます。でも、死後の世界では、自分で自分の心を裁きますから、逃げることはできません。

悔いの残る人生、罪の意識にさいなまれる人生を送った人ほど、死後の苦悩が深くなります。そのような苦悩を表したのが地獄絵図です。身を焦がすような妄念から火の池地獄が生まれ、罪悪感に心を刺される痛みが針山地獄をつくり、業の深さと、それに溺れる心が血の池地獄として現れます。

こうした苦悩も、いつかは昇華されるはずですが、後悔の念や罪の意識の深さによっては、長い時間がかかることでしょう。

反対に、納得のいく人生を送った人は、花園が待つ世界へと行けるようです。

昔の人たちは、今よりずっと清らかな地球に住んでいた分、感性も純粹で、潜在意識が澄みわたっていたようです。そんな人たちが、死後の世界での体験を思いだし、表現したのが、閻魔大王であり、地獄と極楽でした。

実は私は、皆様おひとりおひとりの心は、地球につながっていると感じています。皆様の考えていることや行いは、すべて地球が知っています。その意味では、閻魔大王も地獄も極楽も、地球の意識の中にあるのかもしれませんが。

後悔や罪の意識が「地獄」をつくります。

64 私たちはふたたびこの世に生まれてくる

ここでは、現世で肉体の死を迎えたあとの世界について、不思議な世界の方々から教えていただいたことを少しお話ししたいと思います。

あちらの世界へまいりますと、現世での行いをふり返る場があることは、前の項目でお伝えしたとおりです。ところが、これを逃れたいの思いから、肉体の死という現実を受けとめようとしないう人がいるそうです。

また、肉体を失いますと、それまでのように、「思い」を「行動」に移すことができません。そのことに歯がゆさを感じ、肉体と心が分離したことを認めようとせず、現世に執着する人もいます。

このようなとき、その人の意識体（心）は、暗闇の中でしか存在できない意識体へと変化します。そして、肉体の死を自分自身が認めないかぎり、あちらの世界へ移行することができません。

一方、心静かに肉体の死を受け入れた人は、すべての意識体の原点である光に溶け込みます。そして、「来世」と呼ばれる世界に、ふたたび人として姿を現します。

現世は来世への足がかり、過去世は現世への橋渡しです。今を大切に歩むことが、現世で生きた証となります。いかな

る問題が人生の途中で起きようと、清き心で生きれば必ず道が開け、自分に合った生き方を見いだすことができるのです。

感謝なき日常は、崩壊への道につながります。みずからの心を磨き、来世に光を届ける。これが私たち人間の使命です。私たちの死後、来世がいつ与えられるかはわかりません。でも、地球上で肉体を持って生きる日が必ずくるのです。そのとき、この地球はどんな姿になっているでしょうか。今より美しい姿になっていることを願わずにはいられません。その願いを現実のものにすることも、私たち人間の役目なのです。

自分の心を磨き、来世に光を届けましょう。